

第1回 生駒市食育推進計画ワーキンググループ会議録（案）

- 1 日時 平成25年1月18日（金） 14時00分～16時00分
- 2 場所 セラビーいこま メディカル棟 3階研修室
- 3 出席者
（参加者） 天野信子氏、澤井遵氏、岩橋明子氏、藤尾庸子氏、本田千文氏、
玉村綾子氏
中中一弘氏、米田恵美子氏、西澤富夫氏、奥田高弘氏
（事務局） 尾山健康課長、近藤健康課課長補佐、川島健康課主査、村田栄養士、田村保
健師

- 4 欠席者 中溝辰男氏、深谷修次氏、古川喜幸氏

5 議事内容

計画の素案について、ワーキンググループを2班に分け、それぞれブレインストーミング形式で自由に次のようなご意見や課題などを出し合いました。

（1） 案件

第2期 生駒市食育推進計画（案）について

「市民一人ひとりが食生活を見直し、食育を実践しましょう」について出された意見のまとめ

- ・安全面に関して、アレルギーや、食品添加物、高齢者の低栄養について
- ・子どもへの食育の大切さ、無関心期の方に情報を伝える為に、広報やKC Nの活用方法について
- ・中学校・高校での食育の充実の必要性について
- ・若い保護者が食について学べる機会を持つ為の市民団体とのつながりの必要性について

「幼少期から正しい食習慣や生活習慣を身につけましょう」について出された意見のまとめ

- ・わ食の日の周知に関する民間飲食店との連携について
 - ・家庭で食についての話題が持てるための、食のチェックシートの普及について
 - ・残さず食べる意識付けの為に、食べることができた子どもに対してほめる
- 「みんなで食を楽しむ機会を増やしましょう」について出された意見のまとめ

- ・栄養成分表示の店や、健康づくりに適した食事を提供する店などの協力店を増やし、アピールする。
- ・給食だよりの活用や、自宅で簡単に出来るペットボトル栽培やグリーンガーデンなどを含めた農業体験の実施。
- ・調理体験は、費用のかからない学校の調理室の利用を考える。

ワーキング長まとめ

- ・第2期計画は、啓発の次の段階。無関心期にある人に向けた継続的な働きかけ、関心期にある人には、具体的な行動変容を起こすための支援（技術や知識の提供）が必要。
 - ・「一緒に学ぶ」形の体験型や参加型の講義は教育効果が高まる。
 - ・まず、どちらの人も、振り向いてくれるような工夫（キャッチコピー・イラスト・まんが等）をし、振り向いてくれたら、行動変容を起こすための学習機会の提供が必要。
 - ・中高生は食育の働きかけが最も弱い世代だが、自分で食べるものを選んだり買うことが出来、食行動が多岐にわたると同時に食生活の修正が可能な食育の最終段階。この年齢層にもっと働きかけを行うことが課題。また、後期高齢者の独居・夫婦世帯になると、食への関心が薄まったり行動に移すことが出来なくなる。ライフステージに視点を向け、重点的に働きかける必要がある。
- 知識や技術の提供は、ある一定レベルまで達した今、次のステージとして何が必要かを考えなければならない。

(2) その他

今後のスケジュールについて確認。

第3回懇話会 平成25年2月13日（水）

パブリックコメント 平成25年2月末